



Infor LN プロジェクト プロジェクト 見積ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲読に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	tpestug (U9799)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 はじめに.....	7
第2章 プロジェクト見積のコンセプト.....	9
見積処理の理解.....	9
プロジェクト見積.....	9
見積タイプ.....	9
先行見積タイプ.....	9
見積のローンチのための予算タイプ.....	9
見積バージョン.....	10
見積バージョン構造.....	10
見積シリーズ.....	10
入札.....	10
第3章 プロジェクト見積処理.....	11
見積を定義するには.....	11
前提条件.....	11
見積バージョンの定義.....	11
プロジェクトから構造をコピー.....	11
見積ラインの定義.....	12
見積のスケジュール.....	12
見積のローンチ.....	12
見積ラインレベルを使用するには.....	12
先行見積タイプを使用するには.....	13
見積を構造化するには.....	14
見積ライン.....	14
見積詳細.....	16
レベルタイプを使用するには.....	17
トップダウンレベルタイプ.....	17
ボトムアップレベルタイプ.....	18
先行見積タイプ (LET) 計算.....	18
合計レベルタイプの計算.....	18

見積バージョンを使用するには.....	19
見積バージョンを作成するには.....	19
見積構造を使用するには.....	20
見積を予算にローンチするには.....	21
見積をトップダウン予算にローンチするには.....	21
見積をボトムアップ予算にローンチするには.....	22
入札を使用するには.....	23
入札構造を表示するには.....	23
入札を契約に変換するには.....	24
入札を比較するには.....	24

文書情報

目的

本書の目的は、プロジェクト見積の目的、見積構造を使用して実現できること、プロジェクトの見積の作成手順と使用手順を説明することです。

対象読者

本書は、見積、見積ライン、見積構造、見積バージョン、入札の使用手順を学びたい方を対象としており、各自の目的に合わせて学習することができます。エンドユーザと管理者レベルのユーザのどちらも、必要な情報が見つかります。

前提となる知識

プロジェクト内の見積の作成に関係する業務処理に精通していること。また、Infor LN の機能に関する一般的知識は本書の理解に役立ちます。さらに、プロジェクトトレーニングコースも用意されています。

本書の概要

最初の章「はじめに」では、見積の目的と一般的特徴について説明します。

それ以降の章では、見積の設定と、見積ラインおよびバージョンの作成手順について説明します。

本書では、プロジェクト見積を使用してユーザが実行する手順と、Infor LN が実行する背景処理についても説明します。関係する最も重要なセッションウィンドウとフィールドを説明しますが、すべてのソフトウェア構成要素の完全な説明は本書の対象範囲ではありません。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

本書の使い方

本書は、オンラインヘルプのトピックをまとめたものです。そのため、マニュアルの別のセクションを参照するときは、次の例のように示しています。

参照されたセクションを見つけるには、目次を参照してください。

下線付きの用語は、用語集の定義にリンクされています。本書をオンラインで表示している場合、下線付きのテキストをクリックすると、本書の末尾にある用語集の定義にジャンプします。下線の付いていない参照は、用語集の定義やその他の要素へのリンクではありません。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

第1章 はじめに

1

見積は、プロジェクトの入札や提案の準備をするために、見積タイプ、バージョン、構造、予算タイプを使用してプロジェクトの見積を決定する際に使用する原価設定処理です。見積には、部品、組立、作業、外注労務、設備、その他の直接費と間接費を含めることができます。LN プロジェクトの一部として見積を使用することはオプションです。

第2章

プロジェクト見積のコンセプト

2

見積処理の理解

この章では、プロジェクトの見積と各種関連処理について概要を説明します。

プロジェクト見積

見積とは、特定の商品またはサービスを供給する際に考えられる原価と販売価格を明示したものです。見積は、受注を見込んで作成します。プロジェクト見積は、入札/見積を準備して、プロジェクトの原価を計算し、見積を作成することを目的として使用します。

見積タイプ

見積タイプは、トップダウン構造またはボトムアップ構造を使って計算されます。

- トップダウン: トップダウン構造による原価額または販売額の計算では、最上位の金額を下位レベルの要素に分配します。
- ボトムアップ: ボトムアップ構造による原価額または販売額の計算では、最下位レベルの要素の正確な金額を入力し、同じ金額を集計して最上位金額を計算します。

先行見積タイプ

プロジェクトの構造要素の見積タイプは、先行見積タイプです。先行見積タイプがボトムアップの場合、Infor LNは同じレベルタイプの見積ライン金額を合計して合計先行見積タイプ (LET) 金額を計算します。最上位の構造要素の先行見積タイプがトップダウンの場合、合計先行見積タイプはトップダウンとして定義されている構造要素金額になります。トップダウン構造要素は、見積金額が親金額を超えていないか判断するためだけに確認されます。ただし、合計見積の計算時には使用されません。

見積のローンチのための予算タイプ

見積を予算にローンチするときは、以下の予算タイプのいずれかを選択できます。

- トップダウン予算
- ボトムアップ予算 (活動予算)
- ボトムアップ予算 (要素予算)

見積バージョン

見積バージョンは、見積プロジェクトの一部で、構造要素を使って見積の構造を定義します。バージョンは、価格計算時にさまざまな手法または内外の要求を区別するために使用できます。

見積バージョン構造

見積バージョン構造は、見積のオーダや分類に使用します。多くの場合、複数の見積バージョン構造を使用することにより、見積データをさまざまに分類できます。インポートした活動構造、要素構造、原価構成要素構造、または構造に割り当てられた拡張を見積バージョン構造とすることができます。これらの構造は、既存のプロジェクトからインポートします。また、ユーザ定義構造を見積バージョンにリンクすることもできます。見積フェーズで構造を使用することは任意です。

見積シリーズ

一意のプロジェクト番号を作成する場合に使用される見積シリーズ。見積プロジェクト用に別のプロジェクト範囲を用意することも、見積をプロジェクトのフェーズとして使い、実行時に使用するプロジェクトに見積を含めることもできます。見積シリーズは、プロジェクト番号を作成する場合に理想的です。

入札

見積処理の目的は、成果物 (第一構造要素) の販売価格情報を構成要素とする見積または入札を準備することです。

見積を定義するには

見積処理は、提案、見積、入札を準備するために使用されます。見積は、販売価格、および、提案したスコープ、プロジェクトスケジュール、契約に関する情報から構成されます。

前提条件

プロジェクト (tppdm6100m000) セッションでプロジェクトを作成します。活動構造または要素構造を使用できます。

見積バージョンの定義

見積バージョン (tpest1100m000) セッションで見積バージョンを作成します。さまざまな見積バージョンを使用することにより、異なる見積を作成できます。たとえば、別の見積と比較するために契約拡張を作成したり、見積の追加のスコープを処理します。各見積バージョンは独自で、別のバージョンと関連付けや派生の関係はありません。

[プロジェクト] から構造をコピー

構造を見積バージョンにリンクすることができます。ただし、構造を使わないで見積を作成することもできます。構造コードを作成するには、見積バージョン (tpest1100m000) セッションで、[特定] メニューの [見積構造] を選択します (注意: 新しい構造コードには構造要素が必須です)。[特定] メニューの [構造要素の生成] を選択します。

構造要素の生成 (tpest1220m000) セッションでは、プロジェクト固有の活動、要素、拡張リスト、または原価構成要素から構造要素をコピーできます。これらの新しい要素は、見積構造 (tpest1110m000) セッションで表示できます。1 つの見積バージョンには、最高で 8 構造をリンクできます。見積に複数の構造をリンクすると、必要に応じて見積を分類できます。

たとえば、顧客が 10 隻の船舶の見積を依頼したとします。この見積プロジェクトは、活動が基準になります。バージョンには、「システムエンジニアリング」、「部品製造」などの活動のある活動構造を使用します。この場合、入札で顧客にはこのレベルで詳細を開示したくないため、あまり詳しくない要素構造を見積ラインにリンクします。入札の準備中は、「船倉」、「甲板室」、「ナビゲーション」などのリンクされた要素だけを使用します。この結果、入札では顧客に対し開示した部分のみを提示できます。

見積ラインの定義

見積ライン (tpest2100m000) セッションは見積機能で非常に重要です。見積バージョン (tpest1100m000) セッションで [特定] メニューの [見積ライン] を選択します。見積バージョンのラインを指定します。見積ラインには、実際原価または販売価格が含まれます。販売価格と実際単位原価を組み合わせることもできます。

原価見積から販売見積を定義することも、さまざまな見積バージョンを使用することもできます。見積ラインは、トップダウンまたはボトムアップ (または両方の見積タイプの組み合わせ) です。ボトムアップ見積ラインは合計されて、全体的な見積が得られます。トップダウン見積ラインは、常に第一構造に関連付けられています。合計見積値は、見積ラインを使用して、見積バージョン構造全体に配分されます。

注意

見積セッションを使用して、プロジェクトの見積を計算できます。ただし、Microsoft Excel 統合を使用して見積を計算することもできます。

見積のスケジュール

関連付けられた見積ラインに開始日と終了日をエクスポートできます。[特定] メニューの [ユーティリティの修正] をクリックし、活動にもとづく見積ライン日付の更新 (tpest2204m000) セッションを選択すると、発生原価と予定販売の日付が更新されます。

見積のローンチ

見積を予算にローンチ (tpest2200m000) セッションを使用して、見積を予算編成 モジュールにローンチします。たとえば、顧客が入札を承認した場合、または、作業 (の一部) を開始する必要がある場合です。

見積処理の場合、構造は空でもかまいません。見積をプロジェクト予算にローンチする場合、ラインをコピー可能なデフォルトの要素、活動、拡張、または原価構成要素を指定する必要があります。バージョンまたは見積ラインの状況を [最終] に設定して、見積を予定どおりにローンチすることができます。

入札が成功すると、以下のオプションを使用できます。

- 見積をプロジェクトとしてローンチできます。
- [プロジェクトのコピー (tppdm7840m000)] セッションで見積プロジェクトをコピーして、新しいプロジェクトを開始することができます。その結果、見積モジュールのプロジェクト状況が [ブロック] に設定されます。この処理を使って、顧客契約のプロジェクトから見積プロジェクトを分離できます。新しいプロジェクトでは、コピーした見積を予算にローンチできます。状況を [フリー] から [クローズ] に変更することで、見積プロジェクトバージョンをクローズすることができます。

見積ラインレベルを使用するには

見積レベルタイプを使用して、ボトムアップ構造の合計の集計時に使う必要のあるラインを決定します。見積レベルタイプは、構造要素に基づいてトップダウン金額を計算するときに使用され

ます。見積レベルタイプは、予算にローンチする見積ラインを決定するときにも使用されます。構造要素 (tpest1120m000) セッションを使用して、レベルタイプのパラメータを定義できます。

「トップダウン」の見積タイプの場合、金額は集計できません。そのため、第一構造の整合性チェックについてのみ、異なるレベルタイプを使用できます。次のレベルタイプが使用できます。

- 合計:「合計」レベルタイプにリンクできるのは、構造要素の 1 つの見積ラインのみです。子要素見積ライン金額は、親のトップダウン金額を超過できません。
- 原価タイプ: 5 つの原価タイプラインのみが認められ、各原価タイプは 1 度だけ使用できます。整合性チェックは、同じ構造要素の「合計」レベルタイプ金額が原価タイプ金額を超過していないか判断するために実行されます。
- 他の構造: この構造は、見積の作成時には存在していない可能性があります。ただし、入札の準備、分析、またはローンチの前に、いつでもこの構造をリンクすることができます。整合性チェックは、ラインの金額が構造要素と「合計」レベルタイプの金額を超過していないか判断するために実行されます。
- 詳細: 整合性チェックは、同じ原価タイプのラインが原価タイプの金額と関連構造要素の「合計」レベルタイプを超過していないか確認するために実行されます。

「ボトムアップ」見積タイプの場合、「合計」および「詳細」レベルタイプのみが適用できます。これらのレベルタイプを使用して、単位原価および販売の合計ラインまたは詳細ラインを集計するほか、予算に見積ラインをローンチします。

合計ラインを使用して、まだ定義されていない原価または販売作業を含めることができます。合計ラインはしばしば、数行の詳細ラインに置き換えられます。たとえば、見積に 1 台の設備を製造する原価を含める必要があるとします。しかし、当初はその詳細は不明です。そこで原価合計を推定して、その合計ラインを含めます。設備の設計が終わって労務と材料の詳細が判明したら、見積に詳細ラインを追加して、スコープ内であることを明示します。合計ラインは比較のために残すこともできますが、「スコープに含む」オプションは適用できなくなります。

金額にリンクされたボトムアップ見積は構造関係を持たないため、見積ラインの差異を表示するときに使用できるのは、「合計」および「詳細」レベルタイプだけです。整合性チェックが必要ないため、単位原価を入力して追加することができます。ボトムアップ詳細ラインの場合、第一構造要素は必須ではありません。

先行見積タイプを使用するには

見積タイプを使用すると、トップダウン見積とボトムアップ見積を切り替えることができます。当初は、プロジェクト原価の詳細情報が入手できないため、プロジェクトの見積はトップダウン構造を使用して決定されます。

見積作業の一環として、プロジェクトのおおまかな目標標準原価を計算することによって、まず顧客にとって現実的な入札を作成します。この原価額を使用して、必要な作業や関連部署に見積を割り当てることができます。

たとえば、顧客から豪華なヨットの概算費用の問合せがあったとします。造船所は要望に応じて見積作業を実施します。販売価格は約 6,500 万ユーロと決まりました。ヨットは、プロジェクト管理 (PM) 部署と建造部署の専門知識を駆使して建造する必要があります。プロジェクト管理部署では、ヨットの既存の CAD 図面を設計しなおす必要があります。この原価は 900 万ユーロです。建造部署ではヨットの建造に約 5,000 万ユーロ必要で、ヨットの内装は外注します。

見積バージョン (tpest1100m000) セッションで以下の見積を指定します。

- バージョン: 1a ヨット見積
- バージョン金額: 6,300 万ユーロ
- 収益報酬: 300 万ユーロ
- 管理引当金: 0 ユーロ

注意

配分金額は 0 ユーロ、未配分金額は 6,000 万ユーロと表示されます。

トップダウン見積 (通常、見積処理の後の段階で定義されます):

最上位の金額を 6,000 万ユーロとして定義します。配分金額は 6,000 万ユーロです。

ヨット建造の活動構造:

- 最上位 = ヨット
- 01 = 再設計
- 02 = 造船
- 03 = 装飾

01、02、03 は子活動として最上位にリンクされます。

見積を構造化するには

見積を作成するために、トップダウン先行見積タイプの構造要素が必要です。構造要素 (tpest1120m000) セッションでは、見積タイプをトップダウン、またはボトムアップとして定義できます。構造要素の先行見積タイプによって見積の計算方法が決まり、見積タイプを修正することもできます。

見積ライン (tpest2100m000) セッションで、ライン番号、活動、記述、見積タイプ、ラインレベルタイプ、金額 (ユーロ) などのトップダウン見積を入力します。

ライン 5	最上位	ヨット	トップダウン 合計	6,000 万
ライン 10	01	再設計	トップダウン 合計	900 万
ライン 20	02	造船	トップダウン 合計	5,000 万
ライン 25	03	装飾	トップダウン 合計	100 万

要素 03、ライン 25 は別の会社に外注されます。見積依頼を外注先に送りますが、原価の見積は 100 万ユーロです。

見積ライン

詳細な見積ラインを指定し、見積構造全体を定義する必要があります。子活動では、さらにボトムアップ情報が使用できるため、「ボトムアップ」先行見積タイプを使用します。

構造要素	LET	ローンチレベルタイプ	原価レベルタイプ	販売レベルタイプ
最上位 = ヨット	トップダウン	詳細	合計	合計
01 = 再設計	トップダウン	詳細	合計	合計
02 = 造船	トップダウン	詳細	合計	合計
03 = 装飾	トップダウン	詳細	合計	合計
011 = CAD 補整	トップダウン	詳細	合計	合計
021 = スチール	ボトムアップ	詳細	詳細	合計
022 = 造船所作業	ボトムアップ	詳細	詳細	合計
023 = エンジン	ボトムアップ	詳細	詳細	合計

構造要素 011 は 01 にリンクされます。構造要素 021、022、および 023 は 02 にリンクされます。リンクに基づいて、02 の「造船」親活動は予測間接費のためトップダウン活動のままです。

ライン番号	活動	見積タイプ	ラインレベルタイプ	金額 (ユーロ)
30	021	トップダウン	合計	3,000 万
35	022	トップダウン	合計	1,500 万
40	023	トップダウン	合計	200 万
45	011	トップダウン	合計	500 万
50	011	トップダウン	詳細	300 万
55	011	トップダウン	詳細	200 万
60	02	トップダウン	原価タイプ (労務)	400 万
65	02	トップダウン	原価タイプ (材料)	4,600 万

見積詳細

この例では、トップダウン見積を使用して金額を割り当てています。しかし、このプロジェクトに関与している 2 つの社内部署は、ヨットの製造見積をそれぞれ独自に用意しています。各部署はそれぞれの評価に基づいて、詳細な計算を提供します。このラインと関連情報を見積バージョンで指定します。

ライン番号	活動	見積タイプ	ラインレベルタイプ	金額 (ユーロ)
70	011	ボトムアップ	合計	500 万
80	011	ボトムアップ	詳細	270 万 (設計)
81	011	ボトムアップ	詳細	30 万 (プロジェクト管理)
85	023	ボトムアップ	詳細	100 万
90	022	ボトムアップ	詳細	1,500 万
95	021	ボトムアップ	合計	4,000 万
100	03	ボトムアップ	詳細	50 万

活動 011 の詳細を表示すると、トップダウン合計が 500 万ユーロになることが期待されます。ところが、011 の 2 つのボトムアップ詳細ラインを加算すると、ラインレベルタイプによって、ヨットの該当部分は 300 万ユーロまたは 500 万ユーロになります。必要な見積ラインをすべて指定している場合、合計を集計して先行見積タイプの見積金額を確認できます。計算の公式については、見積ライン (tpest2100m000) セッションを参照してください。

レベルタイプを使用するには

構造要素 (tpest1120m000) セッションの先行見積タイプ (LET) が「ボトムアップ」の場合、「合計」および「詳細」レベルタイプの見積合計を計算できます。構造要素の先行見積タイプが「トップダウン」の場合、レベルタイプ集計を適用できませんが、レベルタイプを使用してトップダウンラインの整合性をチェックすることはできます。

トップダウン見積ラインのレベルタイプ:

- 合計
- 原価タイプ
- 詳細
- 他の構造

トップダウンレベルタイプ

ユーザプロファイル (tppdm0101s000) セッションで、整合性チェックの設定を定義できます。また、トップダウン見積の整合性の検証 (tpest2220m000) セッションのチェックを各フィールドまたは各レコードに対して実行するかどうかも定義できます。見積ライン (tpest2100m000) セッションで入力した [レベル] フィールドのタイプを使用して、チェックは次の順番で実行されます。

- 合計: 「合計」レベルタイプの場合、整合性チェックは、親の構造要素金額が子の構造要素金額を超えているか判断するために実行されます。たとえば、ライン 10 + ライン 20 + ラ

イン 25 はライン 5 以下でなければなりません。トップダウン見積では、必ず「合計」ライン金額を使用する必要があります。

- 原価タイプ:「原価タイプ」レベルタイプの場合、整合性チェックは金額が同じ構造要素の「合計」金額を超過していないか判断するために実行されます。たとえば、ライン 60 + ライン 65 はライン 20 以下でなければなりません。
- 詳細:「詳細」レベルタイプの場合、整合性チェックは同じ原価タイプのライン金額が「合計」レベルタイプを持つ「原価タイプ」金額を超過していないか判断するために実行されます。たとえば、ライン 50 + ライン 55 はライン 45 以下でなければなりません。
- 他の構造:「他の構造」レベルタイプの場合、整合性チェックはライン金額が「合計」レベルタイプを持つ構造要素の金額を超過していないか判断するために実行されます。

注意

「原価タイプ」-「詳細」ライン金額チェックは、トップダウン見積の整合性の検証 (tpest2220m000) セッションを実行した場合のみ実行されます。

ボトムアップレベルタイプ

ボトムアップラインには、レベルタイプは次の 2 つしかありません。「合計」と「詳細」。構造要素 (tpest1120m000) セッションで単位原価を入力して追加すると、ボトムアップ見積でどのレベルタイプを使用する必要があるか決定できます。[原価レベル] フィールドと [販売レベル] フィールドの値によって、原価または販売に集計するラインが決まります。[ローンチ] フィールドのレベルタイプによって、定義されたレベルタイプにリンクしている見積ラインのうち、予算編成にローンチされるラインが決まります。レベルタイプの設定が「合計」の場合、そのレベルタイプのすべての見積ラインがプロジェクト予算にローンチされます。

先行見積タイプ (LET) 計算

見積ライン (tpest2100m000) セッションで [総計合計] をクリックします。先行見積タイプの構造要素の合計金額が見積ラインを使用して計算されます。この金額は、さまざまな先行見積タイプの合計フィールドに表示されます。ボトムアップ見積を使用する場合、この計算は構造要素 (tpest1120m000) セッションのレベルタイプ設定にも左右されます。たとえば、要素 011 の先行見積タイプはトップダウンであり、011 には 3 つのトップダウンラインと 2 つのボトムアップラインがあります。この結果、先行見積タイプ計算には 3 つのトップダウンラインのみが使用されます。

合計レベルタイプの計算

見積ライン (tpest2100m000) セッションに、見積ライン合計の計算が表示されます。たとえば、先行見積タイプを 6,000 万ユーロとします。表示される金額はビューの設定に基づいています。ビューの設定が「最上位」要素であると、「トップダウン合計」次の数が表示されます: 6,000 万ユーロ。

ボトムアップ構造の計算は異なります。構造要素金額が加算され (011 + 023 + 022 = 5 + 15 + 1 = 2,100 万ユーロ)、選択した金額の決定には「原価レベル」フィールドタイプが使用されます。

ボトムアップ見積の場合は、「詳細」レベルタイプでも合計を計算できます。構造要素 (tpest1120m000) セッションで「原価レベル」フィールドタイプが「詳細」に設定されている場合、次の結果が表示されます: 3 + 1 + 0 + 15 + 0,5 = 1,950 万ユーロ。

011 のボトムアップラインを見ると金額に差異があります。「合計」ラインの金額は概算の金額ですが、「詳細」ラインは正確な労働時間です。[原価レベル] フィールドタイプが「詳細」の場合、011 に設定されている 270 万と 30 万の組合せに基づき、011 の合計は 300 万になります。

先行見積タイプ (LET) の「詳細」レベルタイプの計算

- 01 の先行見積タイプ = トップダウン => 見積は 900 万ユーロ
- 021 の先行見積タイプ = ボトムアップ => [原価レベル] フィールドによって、見積は 4000 万ユーロまたは 3000 万ユーロ
- 03 の先行見積タイプ = トップダウン => 見積は 100 万ユーロ

先行見積タイプ合計および原価合計を使用して、入札を送付する前に、さまざまな見積について計算および再計算することができます。この計算の目的は、原価見積を作成することです。同じ見積について、必要な詳細レベルで販売見積を提示することができます。

見積バージョンを使用するには

見積バージョンは構造要素を使って定義されます。インポートした活動構造、要素構造、原価構成要素構造、または関連する拡張を構造とすることができます。これらの構造は、既存のプロジェクトからインポートします。また、ユーザ定義構造を見積バージョンにリンクすることもできます。見積バージョンのプロジェクト構造データが定義されていない場合、リンクされた構造のない見積バージョンを使用できます。

見積バージョンを作成するには

見積バージョン (tpest1100m000) セッションを使用して見積バージョンを作成できます。

- 見積の [バージョン] を指定します。
- [見積日]、[為替レートタイプ (原価)]、[通貨]、[為替レートタイプ (販売)] のような情報を指定します。
- [バージョン金額] を指定します。注意: [収益報酬] + [管理引当金] の値は、バージョン金額以下にする必要があります。
- 見積バージョンの構造を定義します。Infor LN では、2 種類の構造を定義できます。
 - [第一構造]: この構造は、見積バージョンにリンクされ、見積計算に使用できます。この構造を使用して、トップダウン制約 (存在する場合) をチェックします。第一構造は、見積ラインのソートに使用可能な 2 構造のうちの 1 つです。もう 1 つの方法では、ソート構造を使用して見積ラインをソートできます。
 - [追加構造]: 追加構造は第一構造の次に使用されます。ソート構造フィールドに追加構造コードを入力すると、見積ライン (tpest2100m000) セッションで見積の代替ビューとしてその構造を使用できます。

見積は、さまざまなバージョンを持つことができます。各バージョンは固有であり、前のバージョンから派生したものではありません。見積バージョンのコピー (tpest1201m000) セッションを使用してバージョンをコピーします。

見積構造を使用するには

見積バージョン構造は、見積のオーダや分類に使用します。複数の見積バージョン構造を使用することにより、見積データをさまざまに分類できます。

たとえば、顧客のために船舶を 1 隻建造する見積を作成するとします。見積には、入札の単位原価を含めた要素ベースの第一構造、および造船に関する計画活動を持つ追加ソート構造があります。見積は見積ライン (tpest2100m000) セッションでリストされたデータに依存しています。この場合、要素と作業計画の原価の見積ラインは追加の活動構造にリンクされます。

次のビューでは、活動ラインを以下によってソートできます。

- プロジェクト別
- バージョン、見積
- 構造要素のソート: 見積バージョン (tpest1100m000) セッションのソート構造コードと追加活動構造のコードが同じ場合、活動ラインをソートできます。

見積バージョン構造を作成するには

- 1. 見積バージョンに構造を作成します。
- 2. その構造を選択します。
- 3. 構造要素の生成 (tpest1220m000) セッションで、構造要素を作成するか、または既存のプロジェクト構造から要素を生成します。
- 4. 生成した構造を見積バージョンにリンクします。

注意

見積バージョン構造がユーザ定義でない場合、活動 (tppss2100m000) セッションなど、プロジェクト関連構造のセッションでしか、見積バージョン構造に構造要素を追加することはできません。新しい構造要素を入力して、構造要素の生成 (tpest1220m000) セッションを再び実行します。見積バージョン構造が更新されます。

構造は、見積を予算にローンチするときに重要になります。

ローンチには、次の構造タイプを使用できます。

- 活動
- 要素

注意

- 見積処理で使用できるスケジュール機能を含むことができるのは、「活動」構造タイプのみです。
- 同じタイプの構造を複数使うことはできません。
- ユーザ定義の構造を使うことはできません。ユーザ定義の構造はプロジェクト関連ではなく、見積を予算にローンチするときに使われないためです。

見積を予算にローンチするには

見積をプロジェクトにローンチできるのは次の場合です。

- 作業を開始できる
- 入札が受け入れられる
- 長期リードタイム品目がオーダされている

見積をローンチして、見積ラインからプロジェクト予算ラインを作成します。

以下のいずれかについて、ローンチできます。

- 完全なプロジェクト構造。全見積ライン、または選択した見積ラインを含みます。
- 構造の一部。選択構造が階層の場合、ノードを指定する必要があります。この結果、このノードの構造要素にリンクされているすべての構造要素と見積ラインがローンチされます。階層が定義されていない場合、単層構造になり、要素や見積ライン連番を範囲指定できます。範囲内のすべての見積ラインがローンチされます。
- 構造要素の見積タイプが「ボトムアップ」であり、活動タイプが「WBS 要素」または「計画パッケージ」の場合、構造要素は予算にローンチできません。「トップダウン」見積タイプでも、第一構造として活動構造を使用している場合は同じルールが適用されます。
- ローンチされる見積ライン。この場合、先にローンチ済の見積ラインと予算ラインを削除する必要があります。削除しない場合、予算ラインが重複して表示されます。

注意

見積を予算にローンチした後は、見積ラインと予算ラインは無関係です。

間接原価/付加費用を見積バージョンで使用する場合は、見積をローンチするときに予算ラインの付加費用額の値をゼロに変更するか、見積ラインの間接原価を直接原価に変更する必要があります。変更しない場合、付加費用が計算されて実際プロジェクトの間接原価に追加されるため、不正確な予算が生成されます。見積の精度を高めるには、雑費を使用して付加費用によって予算を更新します。[雑費ラインのローンチ] グループボックスで、見積と予算の合計値を清算するためのチェックボックスをオンにします。

見積を予算にローンチするときに、以下の予算タイプを使用できます。

- トップダウン予算
- ボトムアップ予算 (活動予算)
- ボトムアップ予算 (要素予算)

注意

ローンチ済トップダウン予算とボトムアップ予算は関係付けられていません。ローンチ後にトップダウン予算に対してラインのコピーまたは生成を実行することもできます。

見積をトップダウン予算にローンチするには

トップダウン予算をローンチできるのは次の場合だけです。

- 第一構造が活動基準です。トップダウン見積をトップダウン予算にローンチできます。
- トップダウンバージョン状況は「フリー」でなければなりません。プロジェクト予算にバージョンを使用する場合、見積を新しいトップダウン予算バージョンにローンチできます。
- プロジェクト状況は「フリー」または「有効」でなければなりません。

- プロジェクト状況が「有効」の場合、プロジェクト計画はプロジェクトの先行計画である必要があります。
- ローンチ前に、構造の整合性を検証します。見積バージョン構造がプロジェクト活動構造と異なる場合、メッセージログ (tpest0505m000) セッションでエラーメッセージが表示されます。
- 実際のプロジェクトに先行計画が存在しない場合、このプロジェクトは、見積を予算にローンチ (tpest2200m000) セッションのコピー先計画であるローンチ計画によって更新されます。活動構造がローンチ計画に存在しない場合、計画の見積バージョン構造が予算にコピーされます。

見積をボトムアップ予算にローンチするには

選択している見積ラインごとに、予算ラインの情報は次のルールに基づいて自動的に設定されます。

- 見積バージョン構造が予算にコピーされる場合、要素または活動構造が見積バージョンにリンクされていることを確認します。
- 見積予算へのローンチ時に、要素コードが見積ラインで使用されない場合、デフォルトの要素が使用されます。結果として、見積ラインはこのデフォルト要素でローンチされます。同じ処理方法が、活動にも適用されます。
- 活動タイプが WBS 要素活動または計画パッケージ活動の場合、その活動は見積には使用できませんが、予算にはローンチできません。
- 「合計」レベルタイプ (レベルタイプは構造要素 (tpest1120m000) セッションで決定される) のボトムアップ見積ラインは、原価タイプが定義されていませんが、原価額を持つことができます。この場合、見積ラインをローンチするため、見積を予算にローンチ (tpest2200m000) セッションからデフォルト原価タイプと対応するデフォルト原価対象が使用されます。原価対象のタイプが「管理コード」で、チェックボックスがすべてオンの場合、セッションで新しい原価対象が生成されて予算ラインで使用されます。そうでない場合、見積ラインの原価対象が予算ラインで使用されます。予算ラインで使用する原価対象記述は、標準原価対象記述ではありません。
- 原価対象が見積ラインで定義されておらず、[指定しない原価対象] フィールドのチェックボックスがすべてオンの場合、生成されたコードが予算ラインで使用されます。そうでない場合、原価タイプのデフォルト原価対象が使用されます。
- プロジェクト - 原価管理レベル (tppdm6102m000) セッションの原価構成要素の [原価管理レベル] チェックボックスのいずれかがプロジェクトについてオンであり、原価構成要素が構造要素の1つとして定義されている場合、その原価構成要素が予算ラインで使用されます。そうでない場合、原価対象の原価構成要素が予算ラインで使用されます。
- 拡張が構造要素の1つとして存在する場合、拡張が予算ラインで使用されます。[コピー先拡張] フィールドに入力すると、このコピー先拡張によって構造要素とコピー先拡張が上書きされ、予算で使用されます。
- 拡張タイプが「決済対象数量」、請求方法が「予算原価」の場合、販売価格は予算ラインのみで指定されます。
- 付加費用額、偶発金額、上昇金額を雑費ラインとしてローンチできます。

注意: 連番について

見積を予算にローンチ (tpest2200m000) セッションの [原価対象] チェックボックスのいずれかをオンにすると、対応する値がプロジェクトパラメータ (tppdm0100s000) セッションの [連番] グループボックスに入力されます。

管理コードが見積ラインにリンクされると、連番を管理コードに追加して新しい原価対象コードが生成されます。

連番の長さは、プロジェクトパラメータ (tppdm0100s000) セッションの最大長を示す値、およびデータディクショナリで定義されている原価対象コードの長さによって決まります。範囲の連番が使用済である場合、ZZZ00001 で始まる新しいシリーズが生成されます。

たとえば、管理コード 20 が 2 回出現し、連番の長さが 2 であるとします。この場合、コード 2001 と 2002 が生成されます。設備コードでは、桁数の最大値が 10 であるとします。この場合、連番を割り当てるには、見積ライン (tpest2100m000) セッションで入力するオリジナルコードが 10 文字未満でなければなりません。Infor LN は、次に空いている連番を管理コードに割り当てます。

入札を使用するには

見積処理の目的は、要素の販売価格情報、プロジェクトスケジュール、および請求方法情報から成る提案、見積、入札の準備を行うことです。

入札の準備では、見積バージョンを選択する必要があります。見積に関する伝票を Infor LN で保存するには、標準の伝票管理機能を使用します。これらのテンプレートには、プロジェクト計画、CAD 図面、スプレッドシート、または見積に関係するその他の文書が含まれます。

入札には、以下のような見積処理の詳細と顧客への提出書類が含まれます。

- スコープ文書
- 概要シート
- 合意
- スケジュール
- 販売価格見積

これらの文書は、以下から得られます。

- レポート
- スプレッドシート
- テキスト伝票
- Microsoft Project 計画

プロジェクトでは、すべての文書を入札にリンクすることができます。

見積バージョンは、1 つまたは複数の入札を持つことができます。複数の入札を使用して以下を行うことができます。

- 代替提案の提供
- プロジェクトの複数顧客への入札

入札ラインを定義することもできます。入札ラインは、特定の入札について選択されている見積ラインです。見積ラインは、入札準備 (tpest3210m000) セッションで生成するか、「入札ラインの挿入」オプションでマニュアルで挿入します。

入札構造を表示するには

入札ラインはグラフィカルブラウザフレームワーク (GBF) で表示できます。入札ラインは定義されている [第一構造] に基づいて表示されます。構造の一部を選択して、構造要素にリンクされた

入札ラインのデータを表示できます。関連する金額、つまり入札合計または選択した構造要素の合計も表示されます。

入札を契約に変換するには

入札を契約に変換 (tpest3200m000) セッションを使用して、入札を契約に変換できます。[入札状況] が [受入] に設定されている場合は、選択した入札に契約または契約ライン (あるいはその両方) を作成します。入札番号は契約ライン (tpctm1110m000) セッションにコピーされ、契約 (ライン) のデフォルトは入札 (tpest3600m000) セッションの値になります。[入札状況] は [契約発注] に設定されます。

入札を比較するには

入札比較 (tpest3100m100) セッションを使用すると、2 つの入札について計算された入札合計額と、指定された目標入札額を比較できます。この比較は合計販売額、原価額、利益率に基づいており、合計 (見積) レベルまたは構造レベル (活動構造など) で実行できます。